

授業と評価の年間計画

教科	理科	科目	生物	
履修条件 対象生徒	選択 普通科 理型 2年			
学習目標	身のまわりの生物学に関わる現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する態度を高めるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身に付ける。			
学習方法	<p><b>【授業】</b> 教科書、資料集、ICT教材、問題集、プリント等を用いて授業を行う。ノートの取り方については授業の最初の時間で説明する。実験では実験ノートを活用し、科学的な観察力・技能を身に付ける。</p> <p><b>【家庭】</b> 問題集は、予習にも復習にも活用できる。復習中心の学習が効果的であるとともに、日常のニュースを見ることも効果的である。この授業の内容は、3年次以降の理科でも役に立つ内容なので、反復した学習による学力の定着が望まれる。</p> <p><b>【補習・その他】</b> 授業の進捗や生徒の実情に応じて、適宜補習等を行う。</p>			
学習計画 と ねらい	2 2学期 (1) 中間考査終了から期末考査まで ア 生命現象と物質 (ア) 細胞と分子 (イ) 代謝 ・呼吸と発酵 ・光合成 ・窒素同化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞とそのはたらきについて学ぶ。</li> <li>・細胞内外ではたらく酵素の反応について学ぶ。</li> <li>・呼吸や炭酸同化や窒素同化など、生物体内での化学反応について学ぶ。</li> </ul>		
	3 3学期 (1) 学年末考査まで (ウ) 遺伝情報の発現 ・遺伝情報の発現 ・遺伝子の発現調節 ・バイオテクノロジー (2) 学年末考査後 イ 生殖と発生 (ア) 生殖と発生 ・減数分裂と遺伝情報の分配 ・遺伝子の多様な組み合わせ ・動物の配偶子形成と受精	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルドグマのしくみを理解する。</li> <li>・遺伝子の発現を調節する機構について理解する。</li> <li>・DNAやバイオテクノロジーの基礎と応用について学ぶ。</li> <li>・減数分裂の仕組みと有性生殖の意義について理解する。</li> <li>・遺伝現象と様々な遺伝について学ぶ。</li> <li>・精子と卵の形成と受精について学ぶ。</li> </ul>		
評価規準	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
	自然の事物・現象について、基本的な原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に整理することができる。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、科学的に考察し、的確に表現することができる。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする科学的態度を身に付けている。
評価方法	定期考査、授業態度、課題・提出物・小テストなどを総合的に判断して評価する。			
その他	・「生物」は「生物基礎」の授業を履修したのち、2学期中間考査終了後から学習を始める。			